



支出を抑えながらも不時の出費に備えて貯蓄や保険で準備！……毎月の家計のやりくりは大変です。

総務省統計局「家計調査報告（貯蓄・負債編）平成27年平均速報結果の概況（二人以上の世帯）」によると、二人以上の世帯の1世帯当たり平均貯蓄現在高（平均値）は1805万円で、前年に比べ7万円、0.4%の増加となり、3年連続の増加でした。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値（金額の低い世帯から高い世帯へと順に並べ、ちょうど中央に当たる世帯の値）は1054万円（前年1052万円）となりました。

しかし、平均値（1805万円）を下回る世帯が68.0%（前年67.6%）と約3分の2を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い階級に偏ったものとなっています。

勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合51.2%）についてみると、貯蓄現在高の平均値は1309万円で前年に比べ19万円、1.5%の増加となり、貯蓄保有世帯の中央値は761万円（前年741万円）でした。二人以上の世帯全

1世帯当たりの貯蓄現在高

平均1805万円だが、2/3の世帯は下回る

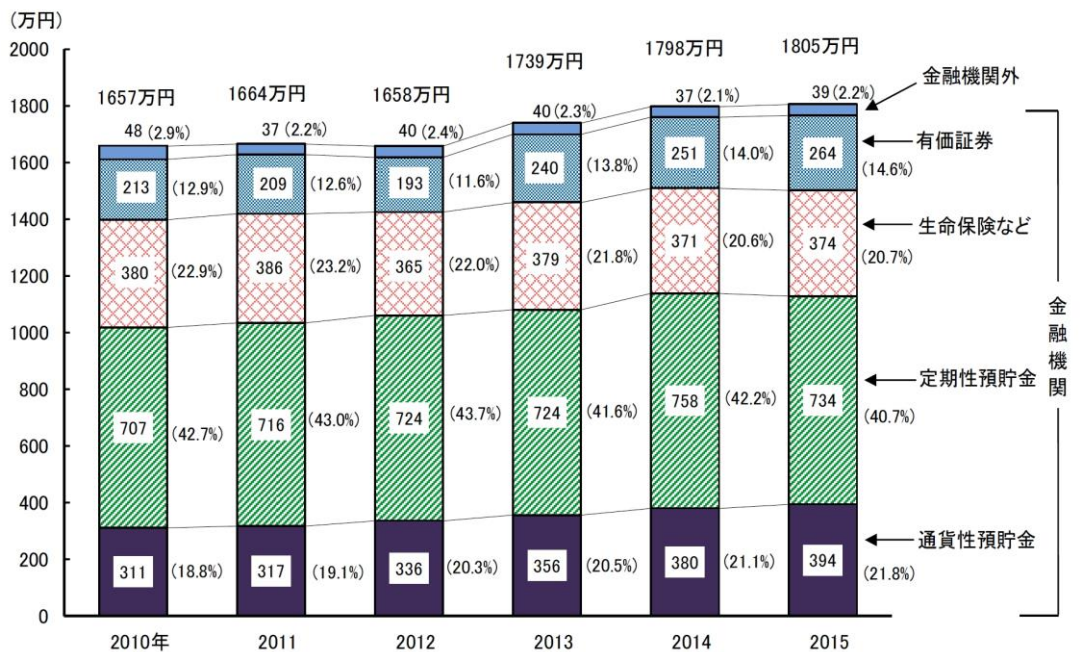
体と比べると、平均値、中央値共に低くなっています。また、年間収入は709万円で、前年に比べ7万円、1.0%の増加となり、貯蓄年収比は184.6%で前年に比べ0.8ポイントの上昇でした。

貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が734万円（貯蓄現在高に占める割合40.7%）と最も多く、次いで通貨性預貯金が394万円（同21.8%）、「生命保険など」が374万円（同20.7%）、有価証券が264万円（同14.6%）、金融機関外が39万円（同2.2%）となっています。

前年と比べると、有価証券、通貨性預貯金および「生命保険など」は増加となっています。特に、有価証券は、前年に比べ13万円、5.2%の増加となり、3年連続で増加しました。一方で、定期性預貯金は24万円、3.2%の減少で、7年ぶりの減少となっています。

貯蓄現在高が少ない世帯では、通貨性預貯金の割合が高く、貯蓄現在高が多い世帯では、定期性預貯金及び有価証券の割合が高くなっており、貯蓄現在高が3000万円以上の世帯では、有価証券の割合は2割となっています。

貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



(注) () 内は、貯蓄現在高に占める割合
総務省統計局「家計調査報告（貯蓄・負債編）平成27年平均速報結果の概況（二人以上の世帯）」

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル